

高齢者移動支援施策（タクシー料金助成制度） の高度化に向けた実証

～高齢者が生き生きと暮らし続けられる地域づくりを目指して～

(仮称) 幸田町移動支援ICT活用推進協議会 構成団体

・ 幸田町 ・ 中電クラビス(株)

・ (一社) ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構

地域課題

- ・ 本町では高齢者数、高齢化率が増加傾向にある。民間路線バスの廃止等により公共交通が十分でない地域が多く存在し、免許返納者も増加していることから、「高齢者が日々楽しみや生きがいを持ち、生き生きと暮らし続けられる地域づくり」のため、また要介護者の増加や医療費・介護給付費の増加を防ぐため、**高齢者外出支援・促進策の確立が急務**となっている。
- ・ こうした背景から、本町では高齢者向けにタクシー乗車料金の一部を助成する「タクシー料金助成制度」を設けているが、下記の通り、**利用者やタクシー事業者の負担軽減、データを活用したより良い制度設計**の必要性が生じている。

タクシー料金助成制度の課題

- 1. 利用者の負担が大きい**
紙の助成券の持ち運び・管理、精算時の必要事項記入、年度ごとの更新申請等が負担になっており、利用率が低迷。
- 2. タクシー事業者の負担が大きい**
町との助成料金精算等に関する事務処理作業の負担が大きい。制度利用者の増加に伴い、負担は増加傾向。
- 3. データに基づく制度改定ができていない**
これまで、利用者からの要望に応え制度改定を重ねてきているが、利用データが取得・分析できていないため、根拠に基づく制度改定や、効果の検証ができていない。

実証内容

利用者モニターに専用のICカードを付与。タクシーに搭載するスマートフォン等にかざすことで助成決済が行われ、利用データが自動収集されるシステムを構築。また、現行制度とは異なる制度を実証用に用意。利用者モニターおよび協力タクシー事業者に一定期間利用いただき、下記項目について調査・検証を行う。

- 1. 利用者・タクシー乗務員の受容性、利便性向上効果。**
- 2. タクシー事業者の負担軽減効果。**
- 3. 利用者の行動が現行制度と比較してどう変化するか。より使いやすく、外出促進効果の高い制度はどのようなものか。**

<実証スキーム（イメージ図）>

